明治十一年十二月三日第三種郵便物認可　（日曜日及祭日の翌日休刊）　明治四十二年六月十一日（金曜日）　第百卅二號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

我商人の團体的精神

抑社會生活の複雜となるに及んで、個人の利益は衆人の利益と相反する點も多くなると同時に調和すべき事も増し行く也其衝突を避けて專ら調和に導くは經世家の腦漿を絞る所なれども外部の勢力によりて之が調和を計るは到底圓滿なる解決に詣るの道に非ず各人精神の陶冶によりて内在的に調和の方法を講せざるべからず、團結的精神が單に消極的に損失を防止するに於てのみならず、積極的に利益増進を劃策するに於て甚だ必要となるは歐米先進國に其例多き所近時我經濟生活に於ても益々其必要に促さるゝものあるが如く、或は會社其他衆團的形式續々として現はる、然れども果して其精神に於て會得する所ありや、形骸を模して精神を採らざるの傾なきや、同業組合、會議所の不振、會社破綻の續出、此等は余輩の疑を解きて悲しむべき確信に導くの證據に非ざるか、維新以來我が思想界は混沌として尚未だ過渡期に在り、二大戰爭は國民の自覺を促したるは事實なるべしと雖其自覺が商人階級に於て幾何の程度に達したるか疑多し吾人の見る所を以てすれば、商人たる自覺に就いて未だ慊たらざるもの多く殆んど社會的精神を缺るに近きが如し未だ個人の自覺なく何ぞ團結的精神あらんや商人の社會に於ける地位目的職分の自覺は軈て團結的精神を生み團結的行動の美果を收むる所以に非ざるなけん、此團結的精神の缺乏即ち他面に於て個人自覺の不徹底は果して何に歸因するぞ、曰く、帝國商人は經濟的試練に逢へる事少く精神陶冶に於て歐米先進國商人に數百歩を後れたるに因る、かの英國經濟學者の多くが經濟活動自由論の根底としたる「個人は個人の利益に最も精通す」との言、及び自由貿易政策論にして初めて能く會得すべきもの獨乙の學者が之を非難し、政府萬能を說くは夫々經濟界人士の團結的精神の如何に懸る、英國にして自由に放任するも其利己心の己は社會に於ける己なれば弊害少し獨逸の干渉主張するは即ち其國民が社會に於ける己の自覺を缺き單なる自己のみによりて行動するが爲めのみ、日本の學者が近時獨逸の流を汲んで、政府万能の思想を鼓吹するは果して帝國臣民に社會に於ける已なる自覺なきを觀破せる結果なりや、噫帝國商人は永く單なる自己以外に社會に於ける己の自覺即ち團結的精神涵養の素地無しとするか余輩は而かく信する能はざるが故に此團結的精神の涵養を鼓吹す、これやがて自由貿易政策鼓吹の前提にして、又やがて帝國商民の世界に雄飛する素地を築き、國際經濟場裡の覇者たるべき資格を体得する所以なれば也（東京經濟雜誌）

文苑

●百人一首讀替（十二）　まゝこ女史投

●大納言公任●
しの原の桐野むら田や西郷に
邊見つたへて千代も朽ちせじ

●和泉式部●
われはいまはかなき風の襲ひこむ
蕾のひと枝きみにさしけん

●紫式部●
久方のみへに聲せんつかのまに
くもに失しぞ恨みなりけり

●大貳三位●
積雪にゆきこう竄うづむれど
ゐやまさるとも何ぞ忘れむ

●赤染衛門●
知るからはなにをためらう片時も
こゝろ濟ちに我はいねまじ

●小式部内侍●
せくからはから橘廻ゝ粟津こし
光利はたすからさきの松

●伊勢大輔●
東方みかどは移しましませぞ
大和のさくら昔わすれぬ

俳句

●新羅の風俗●

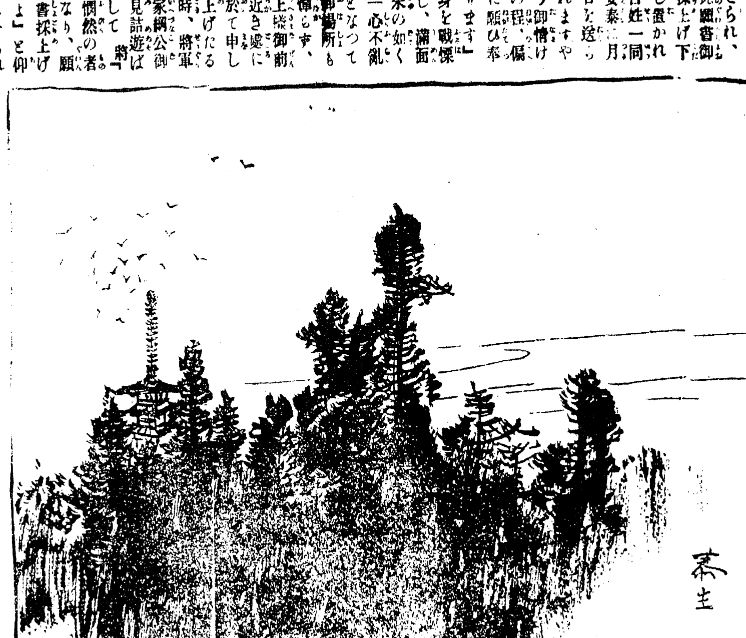
牛像に雨乞ふ一村の白衣人　怨堂
四手網漁夫の舞や灯取蟲　同
灯取蟲撮み捨てたる舞子かな　同
暑き日を樹蔭に竹の細工かな　同
暑き日を砂煙立てゝ兵車かな　同



佐倉宗吾（百三）

眞龍齋貞水講演

今御清草履を御穿き遊ばして、御段へ昇らせ給ふ途端に　宗「公津村宗五郎恐れながら御願ひでございます」と申し上げた、斯りや御傍に附添をして居りました人々も、不意に起りまして公津村宗五郎、御願ひでございますと云ふ聲を聞き、一時アッと驚いた然れども流石は將軍家に居らせますに依つて、ジロッと御覽あそばした時、其當時御若年寄を勤めて居ました、戸田采女正、大音を掲げられたる事にて　采「何奴なれば御場所柄も憚らずして、將軍家を驚かし奉る不屆者奴がッ」と呼はるや否や、既う御近侍がツカ〳〵ッと進みまして、宗吾の兩の腕を把つ、ツ、ツ、ツと引下げました此時戸田采女正殿、上樣の御身体を、自分の身体にて、ズッと境界を立つて、宗吾の方を、ハッタと御睨みに相成りました、又一同の御家來方は、小さ刀に手を懸けて、キッと此宗五郎の方へ眼を御着けになりました、斯りや萬一の場合には、斬捨てゝ了うと云ふ覺期でございます、此時宗吾を引据れたのが、余り激しかつたゝめに、宗吾は下の甃石にて眉間の處を擦破し、血潮が聊か面部に流れ、兩眼血走り、蒼白に成つて押へ付けられるのを、尚首を恐る〳〵上げまして　宗「下總の國印旛の郡、佐倉の領主堀田上野介領分百姓、公津新田上岩橋村々役宗吾郎、御取立の嚴しき所より、絶体絶命、領主役人に數度嘆願を致せしも、其甲斐これなく、領分百姓一同の困難此上もなき次第、何卒いたしまして上樣寛大の思召を有たせられ、此願書御採上げ下し置かれ、百姓一同安泰に月日を送らう御情けの程、偏に願ひ奉ります」身を戰慄し、滿面朱の如く一心不亂となつて御場所も憚らず、上樣御前近き處に於て申し上げたる時、將軍家綱公御見詰遊ばして　將「憫然の者なり、願書採上げよ」と仰ふせられる、是は大した事でございますから、將軍家の御言葉が掛りますと　采「斯りや、公津村々役宗吾郎、唯今上樣、願書御採上に相成りしぞ　宗「へ、ヘエーッ」ハラ〳〵ッと落涙をなしたる事にて「アラ有難き事に候なり」と此時の宗吾は、實に何とも言葉に盡し難き喜びでございました、然るに此方に於ては、愈よ大慈悲のあらせらるゝ四代將軍家、御父上三代將軍家光公大猷院殿に、御拜を御遂げ遊ばされる、折柄内陣の方には圓珠院樣、此願書御採上と云ふ事を御聞き遊ばすと物の美事に御自殺遊ばされました是は宗吾郎を是まで手引をして將軍家を驚かし奉りたるは誠に濟ぬ事と思召たれども是ぞ人を濟ふ出家の本分から事こゝに及んだのでございますから、自分で責を引いて御自殺遊ばされたのでございます、是等の濟ひ方が、本統に衆生を濟ふ道でございますに依つて、圓珠院樣の最後を、後と〳〵にて將軍家も御聞き遊ばし、御落涙遊ばされ、實に出家の出家たるは、圓珠院であるとの御言葉がありました、それが爲め凌雲院大僧正は、後に何の御咎もなかつたさて一時は御靈屋の前は、騷がしくございましたけれども、一人の下郎のために、此御參拜を御止りあつて、御引返しと云ふ事も是なく、先づ御拜を御遂げ遊ばされ、御本坊まで御戻りに相成り、一時御休息の上直ぐに御歸城相成りました、此方は宗五郎元來なれば繩を懸けられるのでムりますが上野の山内では、宮樣が御住ゐにならせらるゝに由て、繩を懸ける事が出來ないから宗五郎の袖下を取りまして、上野黒門へ伴れて參り、寺社奉行井上河内守殿へ御渡しに相成りました





寄書

韓國中央銀行論（七）

（其の六續き） ケー・シー生

第一銀行より紙幣發行の取上ぐる場合に於ける報償條件（四）

（三）第一銀行政府貸上金の整理

韓國政府に對する第一銀行の貸上金は明治卅八年一月の契約に依る貨幣整理資金參百萬圓の外に、時貸越金九百萬圓を併せ昨今の處約壹千貳百萬圓なり其利率は年六分にして實際は長期の性質を帶べり此低利巨額の貸上金は紙幣發行の公認に對する交換と見て差支なく普通の貸借に非ざるは三十八年一月の契約文意に徴するも之を推知するを得べし、即ち銀行券發行に伴ひ必要上貸出したるものなれば第一銀行が現下の際此貸上金の回收を便宜ならしむる爲め特權の解除と同時に第一銀行は政府に向て此貸金の皆濟を要求するも敢て不當に非ざるべし韓政府も新設の中央銀行に向て此貸金を振替へ借入れを爲せば拂濟の義務を果すに於て別に苦痛を感ぜざるべし故に第一銀行政府貸金は特權解除と同時に新設中央銀行に振替整理するを便法なりとす

（四）第一銀行の貸金の整理

本號の貸金とは公共團体に對する放資を意味す即ち各地の居留民團に對する貸金なり仁川其他の信用組合若しくは一部の官公署に貸與せるものなきにあらざるも此等は第一銀行が普通銀行の資格を以て普通の取引を爲したるものと見るが正當の解釈なるべし、唯々居留民團に對する貸金に至りては自ら其性質を異にし紙幣發行の特典を有する代りに居留民の發展に援助を與ふべき義務ありとの主旨に基き低利長期の民團債を引受けたるものなれば特典の解除と同時に援助の義務をも亦消滅すべく從て其貸金の回收を即時要求し得ると云はざるを得ず聞くところに依れば各民團に對する貸金は約百五十萬圓なりと金額將來多大ならざるに依り第一銀行の都合に於ては此際即時回收の必要なかるべきも普通商業銀行として其資本金一千萬圓の一割五分を長期低利の特殊貸金に放資する如きは謹愼なる銀行家の避くべきことなれば其整理の一法として特權解除と同時に此種の貸金を新設の中央銀行に振替へ讓渡する條件を提供して政府の盡力を要求すべきも第一銀行として正當の申分なり澁澤男爵はイザ知らず其他の第一銀行理事者は必ずや此條件を主張するに躊躇せざるべしと信ず

東京電報

▲親任式の決定 曾禰副統監の親任式は十一日午前十時に擧行せらるゝ事に決定せり

▲日糖事件と辯論 日糖事件は以上日迄に事實の審問を終り次回より辯論に入るべし

▲建造費の受諾 英國政府は濠洲より戰艦建造費を受諾したり

▲樺太漁民騒動 一木内務次官等を迎へし樺太漁民二千名は拔劍せる警官兵及守備隊の爲に切立てられ内二名は危篤也右は電文簡なるを以て原因を知るに由なし

▲郵便條約調印 [illegible]

▲官制改正と發表 韓國官制改正は八日の閣議に上り樞密院の諮詢を經て發表の筈也

▲宮殿下と園遊會 梨本宮殿下は八日日本協會の園遊會に臨ませられたり（以上十日午後發）

外報一束

●英獨露の關係 近日行はるべき獨逸皇帝の露都訪問の爲生じたる一般人民間の誤解は伯林に於て獨逸は列國關係の變動を期待せずと發表したる結果大に融解せり英露の友情は大に利益あるを確信せるを以て今回の兩帝會見の如き政治家も實業家も英露の友情を歡迎すべしと

●清國學生暴狀 武昌の法政學堂教師文學士野村浩一氏は講堂にて講義の際生徒の居睡り或は不熱心の模樣見ゆるより稍激越の言語を以て之を激勵したるに生徒は却て之を憤り全校生徒一致してストライキをなし野村氏放逐の運動をなし今や大問題となりて近來清國人が我應聘教師を蔑視すること甚しく何れも無禮の處置に出づる事は一般に認むる處なりと

●伊國太后不例 伊國皇太后マーゲリタ殿下は御不例にて之が爲め日本國への御旅行も延期せられたりと

●佛國財政困難 佛國内閣會議は非常なる財政困難の結果更に歳出を削減する件を可とするに至れり尚經費不足は殆ど五百萬磅に上れりと傳へらる

雜報

●國有未墾地處分

農商工部農務局の調査に係る五月末現在國有未墾地請願處分成蹟は左の如くなる由（單位は町）

▲貸付請願

種別	受付	許可	不許可	却下	現在
日人	五六、六七七	一、六三九	四、〇八六	一八、三六八	三二、五八四
韓人	四九、八三	四、一九四	一、五〇二	八、二四九	三五、八〇七
計	一〇六、四一九	五、八三三	五、五八八	二六、六一七	六八、三九一

▲認證申請

種別	受付	許可	不許可	却下	現在
日人	二、一七一	一四二	—	七七九	一、二五〇
韓人	六、九四六	三、四一九	—	一、七九四	一、七三三
計	九、一一七	三、五六一	—	二、五七三	二、九八三

備考 請願件數は受付に於て一千四百五十三申請件數は同七十二にして就願と雖も件數は之を計上し面積は之を計上せず

●道書記官會議（學部所管）

十日は九日の議事に引續き主として協議事項の第二則ち地方費法施行後地方費を以て支辨すべき教育事業の件に就き種々協議する處ありしが尚教育關係の事項に就き各書記官の意見を聽取して散會したるが之れにて學部に於ける諮問會議は終了し十一日よりは農商工部に於て既報の諮問事項に就き協議會を開くべしと

●韓國中央銀行協議

澁澤榮一男は七日午後三時五十分より伊藤統監を大森の邸に訪問し曾禰副統監、荒井度支部次官等も列席の上協議する處ありたるが韓國中央銀行設立の件に關してならんといふ

●帝室山林の保護

帝室附屬の山林は其數百八十三個所にして李朝の分八十三個所と高麗朝及新羅朝の分百個所ある由なるが所在は重もに京畿道にて水原の如きは一個所にて千町歩以上の山林あり曩きに其保護方を山林局に委託したるに近來盛んに盜伐の行はるゝ形跡あるより其筋にては之が取締方に就き目下協議中なりといふ

●地方官法規制定

内部地方局にては地方官の法規を編制せんとて道書記官に對し協議する處あり直に起案に着手せりと

●臨時内閣會議

李首相以下各部大臣は十日午前十一時昌德宮内の内閣に參集し何事か協議する所ありと

●韓皇巡幸の費用

曩きに韓皇が南韓及西鮮巡幸に就て要したる費用は二十三萬余圓なりとのことなるが何れも豫備金より支出したるものにて支拂殘額五萬圓は近日再び豫備金より支出する筈なりといふ

●前副大統領來韓期

東京滯在中の米國前副大統領フエアバンクス氏夫妻は愈々來る十九日夜行列車にて入京する由其筋に通知ありたりと

●各大臣の養蠶視察

韓國各部大臣は在龍山の大韓婦人會の附屬蠶業講習所を視察すべく中村農務局長及び山本農務課長を從へ十日午後一時出張せり

●大坂觀光團の來韓

大阪觀光團一行約六十名は十一日釜山着十三日入京すべきに就き帝國新聞社長鄭雲復氏は漢城府民會を代表して出迎の爲め十日朝釜山へ向へる由

●京商議員の協議會

既報の通り本月末を以て半數改選さるべき商業會議所議員の件に就き九日夜七時より各議員出席の上種々協議する處ありたりと因みに出席者は十六名にして缺席八名なり

●忠清北道觀察府の分課

忠清北道の觀察府にては此程内部に分課規程を定め左の七課に分てりといふ▲第一課秘書係、第二課文書係▲第三課地方係、第四課學部係▲第五課勸業係▲第六課土木係▲第七課會計係

●朝鮮人夫の渡日

釜山港紀芳太郎氏の出願に係る滋賀縣宇治水力電氣の墜道工事に要する韓人夫五十名渡日に關する件は釜山理事官を經て統監府に申請中の處石塚長官代理は別に差支ふることなしとてこれを認可したり

●新税と納入告知

韓國新三税中酒、家屋の二税は本月を以て納入せしむる事となり居り客月來財務署は面長を經て夫れ〱納入告知書を配布し居れるが各道共此程大略の配布を終りたり

●面長職制の制定

面長の職務權限を規定すると同時に其任免權等を制定するは刻下の急務なるに依り曩きに面長職制案なるものを起草し内部に於て屢々審議したる結果目下統監府に提出中の由なれば不日勅令として公布さるべしと

●學相の訓示要項（承前）

九日午前十時より學部に於て開かれし道書記官會議に於ける李學相の訓示要項の續き左の如し

三、私立學校令發布の當時に在りては種々の蜚語流説行はれ爲めに一般の誤解を來たし其結果往々認可出願を躊躇せるものあり學部は之が誤解を釋くに努め爲めに諸君を煩はしたる事一再に止まらず幸に諸君は政府の意のある所を察し懇篤之が説明の勞を取られたる結果各種の誤解も漸くにして氷解し爾來設立認可請願書は續々學部に到來し最近の調査に依れば千九百余件の多きに上れり是畢竟諸君の盡力の結果にして學部は深く諸君の勞を多とするものなり最近に於ける私立學校の設立認可出願數は前述の如く千九百余件にして右の内處理濟のもの六百件其他は今方さに調査中に屬し調査結了次第認可を與ふることになし居れり既設の私立學校は本年三月迄に悉皆認可申請漏のもの一も之なき筈なるも而も尚十分該令の徹底せざる爲め申請せざる者少からざるやに聞けり諸君は宜しく今一段の御盡力を以て此際漏れなく認可を申請する樣取計あらんことを望む

認可后に於ける私立學校監督は法令に依り諸君に與へられたり諸君は今後本大臣の指揮を受け適當の監督を加へらるべきは言を俟たざるも私立學校の完備は到底短き期間に於て之を期し得べきものにあらず諸君は宜しく漸を逐ひ徐々に完全の域に達せしめんことを期し指導監督其方を誤らざらんことを望む

四、過般勅令を以て實業學校令を發布せられたることは諸君の了知せらるゝ所なり而して學部は該勅令に基き近々施行規則を發布する筈にて目下取調中なり右實業學校令發布の理由は我韓國人をして將來農商等の實業に從事するに必要なる知識技能を授け且つ利用厚生の道を知らしめ勤勞の貴ぶべき所以を感ぜしめ從ふて實業に就くの風を養はんとするにあり諸君御承知の如く從來に於ける我韓人は兎角生業を嫌ひ勤勞を避け空理空論に走り遊手坐食の徒少からず故に農工商の實業學校を設けて是等從來の弊を矯正すると同時に大に實業の奬勵を圖るは實に刻下必要の事に屬す學部は此見地よりして本年度に於て全國各道内に公立實業學校一校づゝを設置するの計畫を立て豫算を要求したるも國家財政の許さゞる所あり中止の已むを得ざるに至りたるも而も機運は實業學校令の發布の一日も緩ふすべからざるを信じたるを以て本年四月に至り之が發布を見るに至りたる所なり、諸君の熟知せらるゝ所なるべきを以て之を畧す、冀くば諸君政府の意のある所を察し地方に於て事情と經費の許す限り適切なる企畫をなし以て實業教育の奬勵に努められんことを望む

●石塚參與官の警告

各大臣等は統監交迭の結果韓政府の組織に急激なる變更を來しはせずやと臆測し稍々危懼の念に驅られつゝある模樣なるより石塚總務長官は各大臣に對し世間の流説に惑はされざるやう警告を與へたりと云ふ

●驛屯土の收入額

度支部所管の驛屯土收入は隆熙元年度に於て宮内府より度支部に委託を爲し徴税したるものなるが初年は其總收入約五十五萬圓なりしが二年度は豫算七十五万圓を計上したるに米價の下落に依りて其の額に達し得るや否やを懸念したるも豫算より約二千圓の増徴ありたりといふ

●平壤の觀光團歡迎

平壤に於ては熊本の觀光團來壤を期し大歡迎會を開く筈にて平壤郡守は城内外面洞長及有志を召集し目下之れが準備につき協議中なりと尚歡迎會場は牡丹臺下浮碧樓に決定したりといふ

●辭任と留任勸告

前項記載の通り當日本人商業會議所議員は半數議員改選の爲め九日午後七時より同會議所樓上に集合し協議する所ありたるが其の際戸叶書記長辭任の件に就き協議を遂げたるが結局留任を勸告することに決定せり

●鑛業所の擴張方法

平壤鑛業所の擴張は先づ十萬圓を投じて炭質の調査を爲し其成蹟に依り更に百万圓を投じ大擴張を爲すとのことは既報の如くなるが同所の事務は今後營業部と起業部とに分ち起業部の事業としては地下の作業及炭質調査等を爲し營業部は地上の業務を取扱ふことに改正せらるゝ筈にて工學博士和田維四郎氏同所の要務を帶び近々入京の筈なりと云ふ

●土地調查班新設

韓政府に於て國有地調査の計畫ある事は既記せし所なるが今其方法を聞くに全國に通じて財務監督局管内に總計四十余の土地調査班を新設する事とし既に班員の任命を終り近日夫れ〱實地調査に着手せしむる事に決定せる由なるが第一着に東洋拓殖會社に引繼ぐべき驛田屯土の調査を爲すべしと

●滿洲の需要綿布

滿洲に於ける需要綿布は米國品の獨占市場たるの觀ありたるが我が綿布業者は茲に見る所ありて去る三十九年來大阪三重等の紡績會社は滿洲に於ける綿布販路の擴張を遂げん爲め共に協同して日本綿布輸出組合なるものを組織して大に輸出に力むる所ありし結果爾來我が綿布の滿洲に輸入せらるるもの漸次増加の傾向を呈したりといふ

●入札と隨意契約

韓國の會計法中今般改正の內議中なるものは隨意契約の規定にして請負人が競爭入札の場合に於ては之れを開札せし後各人の入札中一札も豫定したる價額の制限に達せざる時は即時入札人をして再入札を行はしめ尚豫定價額の制限に達せざる時は隨意契約を行ふことを得る樣、改正せらるゝ由なるが斯る場合と雖も最初競爭に附したる時定めたる價額及び其の他の條件は變更すること能はざるべしと云ふ

●北韓地方と三税

新税に對する北韓地方に於ける民情を聞くに未だ同税の發布を知らざる者多數にして假令之れが發布を知るものありと雖も其の性質を解せざる有樣なるより先づ觀察道及郡所在地に於ける民情を察し然る後に決行する意嚮なる由なるが觀察道所在地の民情は勿論雜稅なり負擔に堪へずと愚痴をこぼしつゝも觀察使又は郡守の諭告に依り何れ納税せざるべからざるものと思惟し居れる模樣なりと云ふ

●全州昨今の商況

目下韓人の農繁期に向ひたる爲め出市するもの減少し市況一般沈靜の模樣なり農繁期に迫りたるが爲めのみならず米價は獨り不昧なるに原因するものならんといふ尚全州へ來住する日本人は日々に增加し商業界漸次競爭の激甚ならんとする兆ありと

●東萊溫泉の設備

東萊溫泉は南韓唯一の樂園なるが唯同溫泉に至るべき道路險惡なるも東萊釜山鐵道敷設の議熟し已に形式上の敷設認可を得ならば今月末より其起工に及ばんとするの勢なると東萊郡山面の道路も今や將に改修せられんとする機運に向ひ居るを以て溫泉を經營せる豐田某は是等の義務に負ふ處ありとして現今旅館の後方に大旅館を一棟建築し且背部の山邊に點々數棟の家屋を建築し其浴客の需に應ずべく目下其準備に着手しつゝありと云ふ

●李學相の招宴

既報の如く李學部大臣は九日午後六時より各道書記官及學部高等官三十余名を捌梁樓に招待し慰勞の宴を張

●木浦現在の人口

木浦五月中の人口は男千六百二十八人女千三百七十六人計二千九百九十六人なるが前月に比し五十一人の增加

●本派本願寺の講演

長谷川町本派本願寺にては宋佛會の爲め今後毎月一の日に講演を爲す由なるが差し當り今十一日午後八時より開かるべき講演は左の如し

「佛教の見たる宇宙現象」

「眞宗大意」 同

●大和町微笑會

大和町三丁目の[illegible]にては十一日午後八時例會を開き講演

公人私人

▲境野大吉（東京火災保險事務取締） 九日釜山へ

▲堀宗一（台灣製糖會社長） 同日新

▲松田謙助（仁川税關鑑定官） 同日

▲森本俊之助（水原林業事務所長） 同日

▲守田六男（大邱林業事務所長） 同

▲張宇根（平壤警察署警視） 九日入

近事片々

▲東京● 邊の噂では伊公は内心は

を辭する意なき爲に推だ採だと時日を遷

▲更迭● 發表が迂也無耶の中に延る

爲め桂大頭大惱と異らしく流說する者

▲伊公● の心中斯くある處に曾禰子

外に不良の爲め乃公尚更躊躇すと是

▲發表● 遲延すれば爲する程流言風說

間に種々なる風說あるも一々取るに

▲李容● 九送別會に於ける伊公の演

れ替つた樣に一進會を讃美し李宋共

▲李宋● の成泣嗚咽は伊公在韓當時

說を聞たならばと過去を追懐し現在

▲最も● 々々伊公も現職に居る以上

讚辭も述べられまじ亦機一轉は辭任

▲伊公● 直參金子原都築の一派は統

は山縣系の臣に掛りしも之と頻に爺を

▲都築● 原は知らず金子末松杯は無

系に致されたりとて或は憤慨し居る

▲兩國● に於ける政界の分野伊公の

次第縮折角築ける伊圍も桂系の範圍

▲最近● の評判では總務長官はドク

塚君を總と決定せるが如き尚安心

▲昨● 日總務長官として一体石塚君

き右賀康君の如き快腕ある人物とを

▲外務● 部主任にも更に適材を得た

心持もする外交家を總務にして兼任

▲在る● も害なく居らざるも差支な

人物を幾人を置いた所で串踏は擧る者

▲澁澤● 老男も愈々頓悟して第一銀

青院の外は總て辭任したりとは喜ぶ

▲實際● 數十の會社に關係しては勞

任となるを免れず澁男の辭任は社會

▲他の● 重役商賈運も之に鑑て無責

役商賈をやめよ郷等頑張るは社

▲東京● 大相撲住境に入來る太刀新

もて強敵常陸を倒す併し太刀の取口

▲梅ケ● 谷は大事を取過ぎ殆ど萎縮

高見や兩國と分を取る杯余りに意氣

▲國見● も最早進境なし浪の音に敗

駒ケ嶽亦風に倒さる併し是兩方共に

▲流石● は常陸也彼は敗ると雖も梅

意氣地なき相撲を取らず能近も勝敗

平壤下水工事起工

平壤に於ける日韓人は目下工事中なる水道工事の落成と共に下水工事をも起さんとて昨秋來之を計りて國庫より十四萬圓の補助金を與へられんことを内部に交渉し

然許容し難き

に内部は田中技師を特派して親しく工事の設計を聞き協議する處あり内部にても一應其筋に向つて協る處ありしに國庫支出は全く

を勸めたりしが直ちに夫れに決したりと因に韓人側地方税は徴收額にあらざれば未だ其收額を知る能はざるも多分年五万圓内外

平壤下水工事起工

平壤に於ける日韓人は目下工事中なる水道工事の竣成と共に下水工事をも起さんとて昨秋來設計を作りて國庫より十四萬圓の補助金を與へられんことを内部に交渉せしが先きに内部は田中技師を特派して親しく工事の設計を聞き協議する處あり内部にても一應其筋へ向つて協議する處ありしに國庫支出は全然許容し難きも地方税を根據として起工し尚之に民團税をも加へて協力起工することを勸めたりしが直ちに夫れに決したりと因に韓人側地方税は徴收後にあらざれば未だ其收額を知る能はざるも多分年五万圓内外なるべく民團税又五六萬圓の見込なれば此內約五萬圓丈は水道工事に投ずるを得べし

●初夏の副食物　ひら

追々暑氣に向ふて來たので例年の通り食物が總じて不味なつて來た、れ互ひの家では妻君や奥樣や御新造や女房や嬶や山の神やの心配季である、御飯は腐る……迄でなくとも臭ひが附くし、夫れならばと云つて其の都度〱炊けば經濟でもなし且つは暑い時分の事であるから立ち勝る湯氣で何んとなく氣が蒸苦しくなるし、夫れに立ち居も慵く、徐と食て居れば眠くなる、動けば倦くなる汗になる、此の上子供衆の二三人も [illegible]、御察し申すにつ [illegible] 識と出掛ける [illegible] なさるが善い、鹽 [illegible] 宜しいが御飯が冷へ [illegible] 洗肉も無論、とすれ [illegible] ンハンペンのれ煮附 [illegible] のナマリブシの卸し [illegible] 飯にでも何方へも向 [illegible] 居らつしやれば朝の [illegible] らる〻事である、中 [illegible] 意あるべきは金ピラ [illegible] 賑はうし、又一寸間 [illegible] ある。● [illegible] れば殿樣は滿足せら [illegible] 〻のは大間違ひです [illegible] イ〱と目先きの變 [illegible] 然故平素ならば見向 [illegible] 菜)の煮浸しなぞを [illegible] 〻事もあるのです。[illegible] ぞは尤も妙であらふ [illegible] 肉、刺肉、鹽燒三ッ [illegible] は小海老)蛸の三盃酢 [illegible] ると少し硬い樣だが [illegible] もよい、胡瓜揉み此 [illegible] を開いたのを二ッ三 [illegible] よい、蓮根の酢に漬 [illegible] の酢味噌も上等です [illegible] には調法なること申 [illegible] が、總じて甘味を離 [illegible] メ砂糖、苺に同じく [illegible] 油が苦いものであるか [illegible] なぞには干菓子類でも [illegible] もよい、之れに反して [illegible] なる出したら夫れこ [illegible] 夏蜜柑を皮ぐるみ六 [illegible] ことがあるが馬鹿の [illegible] しても當然其内皮即 [illegible] を叮嚀に取り去るべ [illegible] のだらうと思ふから其 [illegible] まれ口を叩いて置く。

夏蜜柑の外皮は棄て〻了はずに、水を取りかへ取りかへ氣永く湯煮をして柔らかくなつた所で三盆白でトロ火で氣永に煮上げて蓋物にでも貯へてれ置きになると一寸ビールの口取りには妙である、此れは御存じでもあらうが切に其實行をれ勸めする面倒だからなんぞと仰云んな、香の物に就きては改めて申さう

●又も仁川の血の雨

▲他人の喧嘩場に亂入す
▲無意味で三人を傷つく

又しても仁川京町、刄傷事件ありたり今其詳細を左に記せん

仁川京町二丁目瀬戸善一と云ふ石工を業とし先頃一事業を引受け其の下受を内山常太郎(五十)西金助(四十)深見孫三郎(三十八)の三名に百二十圓にて受負はせたるが右三名は百三十圓に値上し呉れと數〻前より瀬戸に對し迫まり居り一昨夜も例の如く午後八時頃三人同道にて瀬戸方に來り前記の**値上**の**談判**を開始したるが瀬戸は一言の下に之れを跳ね付けたるより三名のものは豫ねて腹し合ひのありたるものにや突然立つて瀬戸に打つて掛かりたり、恰しも數日前より瀬戸の家に來り居たる**三上吉之助**(三十五)と云ふが其の物音を聞き付け後先の考へもなく傍へにありし**一尺八寸の大刀**を手に執るや見るや四人の**格闘**せる部屋に飛込み物をも云はず**手當り次第**に**薙倒**したれば三人の男も之れには敵することも能はず遂に西は前額部に長さ一寸深さ骨膜に達する傷を、内山は右手首に深さ骨膜に達する傷を負はされ又瀬戸も右腕に長一寸深さ骨膜に達する傷を負ひたるが此報に接し京町派出所の高田巡査は時を移さず現場に出張し負傷者には應急の手當を加へ關係者全部を本署に引致目下取調中也

紳士の遊興振

▲鈴木穆君

統監府書記官にして度支部司税局長なる君は大藏省出の人である、由來赤門出身には一種共通の風骨がある、が是れが各省に出仕すると又夫々の風が備はるされば君に赤門風の上に大藏省風が加はつて居るものだ、大藏省風とはナニ取りも直さず世間の議論に附和雷同せないと云ふ事である、君は曾て目賀田男が顧問となつて渡韓する際同行したもので君も又男が云ふ處の捨名拾實主義を執て彼れのクローマーたりし時代から今日迄小クローマーとして韓國の財政を料理し來つたのである、されば君の遊び方も從つてクローマー式で頗る地味で決して放歌亂醉の態は現はさぬ、尤も顧問時代には元よりやれる口だから、相當に樓上の人ともなつて盃を手にせし事もあり時には艶つぽい事も滿更無いでもなかつたが、今日では彼の長谷川大將から讓り受けた栗毛の駒に跨つて市中を乘打しては居るが其れかと云つて決して罷騎で樓上の人となる樣な事はない、併し二三會心の友と時に小宴を催す場合がある斯かる時には相當呑もし又藝妓も呼ぶ、されど其時の君は飽迄眞面目で膝だに崩さない偶々友人の所望に依つて出るものは謠曲の「鉢の木」である斯樣な始末なれば君の令夫人の如きも安心して昔日とは違つて君に對する信用の度も增して居るそうだ

次は岡内部次官

●强盗の放火

過般黄海道黄州郡々林面朴河原方に黒色の韓衣を纏ひ各自赤色の布片にて面を包みたる四名の韓賊突入して金八千圓の出金方を強請したるも朴の之れに應せざるより鐵棒にて其顔面を毆打したるを以て朴は必死となりて之れに抵抗し苛くも其場を遁れたる處賊は益々怒りて朴及附近の韓人に發砲しつ〻七名の家屋に放火し何れへか逃走したるが其際羅災者金致汝の娘(十三)は戸外に在る賊を怖れて遁場を失ひ遂ひに無慘の燒死を遂げたるが燒失家屋金品等其損害は約五千圓なりといふ

●强盗團の檢擧

過般警視廳訊問課の手に於て八人組及五人組の強盗を檢擧せし由は當時の紙上に詳報したる處なるが又々同課の手に於て東部梨峴居黄容煥(三十七)東部蓮花坊居朴錦柚(四十)外一名を逮捕したるが彼等は四月下旬豫て案内知りたる東部蓮花坊居宮内府侍從院武監金引起方の表門を排し闖入し竹篦に銀紙を張りたるものを刀に擬して家人を脅迫し價格六十余圓の金品を強奪したる等其他多數の犯罪ある見込にて目下取調中なりと

●女のへ、レケ

西部社洞姜性女(六十)と云へる婆さんは一昨日午後七時頃南大門通り二丁目川西雜貨店前道路に打仆れ唸り居たるを警官が保護して南部署に同行せしが同人は鱈腹ドブ六を煽りてへベレケになり居たれば醉の醒むる迄留置て放還す

●東京大相撲勝負附

本場所大相撲三日目の勝負四日目取組及び重なる手捌左の如し

勝		負
有村	(うつちや)	氷見濱
尼ヶ崎	(わたし込)	上ヶ汐
綠嶋	(よりきり)	大の川
兩國	(かへし)	玉椿
太刀山	(だし)	常陸山
瀧の音	(つりだし)	神崎
大綠	(だし)	錦戸
小柳	(預)	鶴渡
西の海	(休)	柏山
中入後		
立川	(おりし)	紫雲龍
碇潟	(すくひ)	黒瀬川
伊勢濱	(よりきり)	千年川
浪の音	(かけ)	國見山
小常陸	(ふみ)	鏡川
鳳	(よりきり)	大湊
朝嵐	(つりだし)	司天龍
高見山	(分)	梅ヶ谷

「四日目取組」

取	組
藤見嶽	山泉
稻瀬川	紫雲龍
鏡川	千年川
立川	碇潟
鶴渡	尼ヶ崎
玉椿	西の海
太刀山	大綠
綠島	常陸山
錦戸	小常陸
黒瀬川	高見山
上ヶ汐	浪の音
司天龍	大の川
伊勢濱	大湊
鳳	駒ヶ嶽
國見山	朝嵐
梅ヶ谷	兩國

右の內重なる手捌を蒐せば▲浪の音に國見山は仕切直すこと幾度幾十分間を費やすも浪容易に立たず國見この體を見て呆れ顔なりしが漸くにして立上るや浪は張手に敵の氣勢を挫き右四つとなり浪は屢〻蹴返しを見せ國見殘して一呼吸、機を見て浪の蹴返し見事に極る▲常陸山に太刀山四十年五月場所に常陸は始めて太刀の爲に破られ其の後洋行の爲顔合はず本年一月は顔觸發表の後常陸休場したれば世には卑怯なりと罵倒する者もありたり而して當場所の太刀は新大關として元氣沖天の概あり常陸は又往年の恥辱を雪ぐべき大事の角力なれば天下の好角家は鶴首して勝負如何と待構へたり兩力士念入りに仕切り立上るや太刀の激しく突張るを常陸受止め右差となり寄詰めしに太刀振り解きて突合ひ太刀右差となりて寄るを常陸突き退け猛虎の荒る〻が如く突合ひ太刀突勝ち常陸の殘るを押し出して太刀の勝は未曾有の騷ぎにて蒲團舞ひ火鉢飛びて凄じき光景なりきと

●釣錢が足らぬ

永樂町二丁目永樂亭內高橋梅吉は一昨夜午前一時頃明治町三丁目に於て車上より一圓を出して朝鮮人より朝日二個を買ひ釣錢として五十錢銀貨一個十錢銀貨三個を貰ひ何心なく車を驅らして途中釣錢の十錢足らざる事を發見し引返して談判せしも煙草屋韓人は之に應せず紛紜中警官來り韓人に五錢を出さしめて事濟み

●畜犬人を咬む

明治町一丁目九十六番戸首藤方雇人船津竹次郎(十八)は同町通行中黒毛の畜犬に咬み付かれて直に漢城病院に入院し該犬は飼主より其筋に連れ出し檢診する筈

●日柄喜のひろめ

本町七丁目京城座前に見出の通りの旗亭がひろめを擧げた、見るからに南翠北綠の清風の心地宜さ其上料理は頗る旨いと云ふので大評判

●江頭眼科醫院開業

前漢城病院眼科部長たりし江頭富雄氏は今回本町一丁目三十四番戸に於て開業し懇切叮嚀に患者の診療に從事する由

●圍碁大競技會

來る十三日(日曜)正午より明治町一丁目京城碁會場に於て大競技會を開催し五人掛優勝者には一等より五等迄景品を呈すると尚ほ會費は壹圓なり

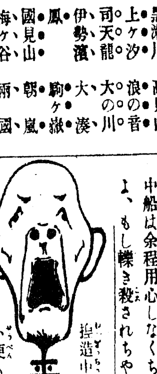
●公判だより

法務院に於ける明日の公判は左の如し

一民事(午前十時) 貸金請求上訴人尾賀正三郎被上訴人大橋清三郎右代理人辯護士岡田榮、大久保雅彦
一刑事(同時) 窃盗殺人外四件被告人中家節三郎辯護人岩本英夫贓物故買平山多三郎辯護人藤井太郎言渡恐喝取財被告人山口左五郎外二名

演藝界

▲京城座は俳優が熱心なと木戸錢が安いのとで連日大入を揭げ居れり
▲龍山座も田宮の藝風が大に人心に叶ひ毎日大入とは結構と云ふべし
▲壽座 二三日中より活動寫眞を開演する筈なるが今回のは曩に渡韓せし横田商會のよりは遙かに上等なりと
▲歌舞伎座 今明兩日は「武士的教育」全八場にして役割左の如し
櫻田勇吉(伊井)小田原少尉(稻田)人夫頭作左衞門(原田)樺島輝忠(飛田)人夫(河合)卜部初子(金澤)卜女れとら(川上)道子(吉田)畑島權七(高島)人夫(中川)紳士(久保田)紳士(山岡)民子(東)卜部道夫(酒田)深谷與一部(北村)荒川少尉(光本)軍醫(大井)



揑造中傷無用のこと
小便も亦御斷り申候

▲空中の轢死▼ 親鳥、子鳥を戒めて曰く「サア〱飛んでお遊びよ、ダケどアノ飛行機や空中船は余程用心しなくちやいけませんよ、もし轢き殺されちやいけないから」

▲本町三丁目烟草商三共商會とか云ふ所の向ひの雜貨屋○○商店の奥さんよ最少し客に愛敬よくしなさい客が少くなりますよね(見太郎)▲長谷川町の末廣は料理も可なり食へてれ酌が美形で座敷は新らしく値段も廉い主人も叮嚀で萬事心持ちが佳いけれども泊めて來れと云ふと頑固なことを云ふ一つ改良して御安直で泊める樣にして呉れ玉へ(助平)▲待合は春日に限る客に惡強いをせぬから、と云つたつて何も他の待合が惡強いをすると云ふ譯ではないが(隔靴坊)▲私は此の次の日曜にはハンモックを攜へて南山翠深き所に一日の清興を貪る可く企圖して居ります(月給鳥)▲健羨に堪ねません其の一日の清遊は確かに以て一年の壽を延ばすに足るべく微妙なる山靈の囁きは以て百日の苦學に勝るものあるべし(小僧)▲小僧君よ君は投首生の相談を手もなく解決して終つたが感情の高潮に達して居る人の頭を刺激して益々感情を昂らしむる樣なことは愼むべきであらう(一老婆)▲御尤もです君の如く一々記事を玩味して讀んで下さつてこそ初めて私等の意志も透ると云ふものです、其所で投首生は名の示すが如く投首生でモハヤ感情の高潮時期は經過して思慮の時代に入り更に其進、止の二途に迷ふて居るのだと認めたから僕は僕の可と認めた方に決定を與へた譯けである決して投首生を誤つては居らぬと信ずるのですが、御注意は深謝致します(小僧)

⑪天氣豫報 (自九日午後六時 至十一日午後六時)

南西の風晴

九日 最高温度 七四、八 最低温度 五八、六 (華氏)

各種 **洗濯石鹸** 專門製造販賣

用途 陸軍、鐵道、船舶、鐵工、鑛山、水道、諸工業用

京城旭町二丁目 （電話九七二番）

朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●被雇度 年廿五普通教育有る婦女會社病院商店の事務員又奥樣ある家庭の上女中に雇れたし保證人あり 名任社（二七八）

●開校 私立裁縫徒弟學校開始す希望者は至急申込あれ規則書入用の向は郵券二錢送付す 龍山本町三の六六 吉村又平治

●注意 紹介依頼者にして電話を有せざる御方は依賴の際郵券封入有りたし左なくば諸般の通知をなすに由なし（係）

●貰子募集 廿歲以上の男子六名入用 旭町一の六〇 旭町競賣所（二八〇）

龍山の霞城生に告く 君とは別人なり（係）

物件部

●貸家 龍山元町電車通（テンカン局隣）地所七十坪韓家屋十八坪地所共格安貸たし 氏名任社（二七九）

●電話讓受たし 本町民團役所前 佐々木

●砂金鑛讓物あり 本町民團役所前 佐々木

廣告

◎婦人良藥（ふじんりやうやく）

子宮病血の道（しきうびやうちのみち） 月やく不順、產前、產後の諸症にて種々の藥を用ひ、其効なく御困りの人は中將湯を試みよ



●如何なる難病も二三週間に全治す
●尙ほ詳しくは大廣告の節御注意を乞ふ

定價 一日分拾錢 四日分卅五錢 一週間分六拾錢 二週間分壹圓拾錢 三週間分壹圓六拾錢

本店 東京日本橋區通四町目
支店 大阪大寶寺町揚筋南入

本舖 東京 大阪 津村順天堂 本店 支店

急告

今般當院に慈惠部を設け資力少なき患者十名を限り入院治療の需に應ず 但し入院料實費を趣へず

龍山老松町（電話二二八番）

上田病院慈惠部

移轉廣告

今般業務擴張の爲め左記の處へ移轉す

南大門外御成町紅葉館跡 （茂呂運送店前）

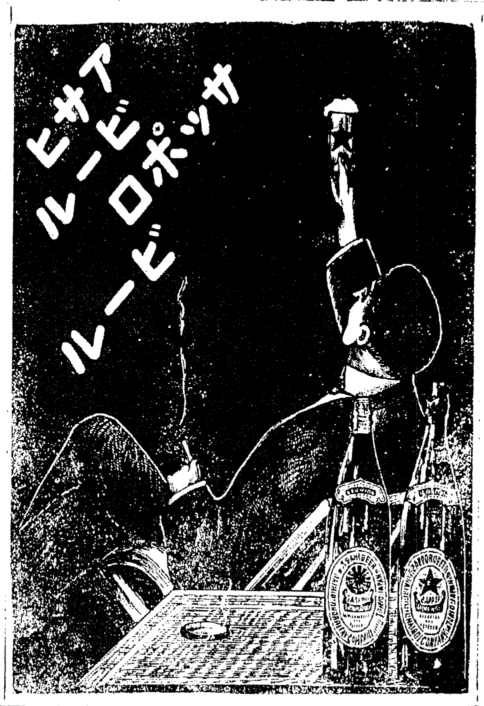
戸田病院

開通 電話九三八番

陸軍御用 大韓醫院御用 統監府病院御用 特定御用

牛乳 荒井牧場

電話一〇五六番



寫眞養成所新設

志望者ハ六月三十日迄ニ申込アレ 郵券封入アレバ規則書進呈ス

龍山元町三丁目 電話參貳番

芦谷審美館

米 東京火災運送海上保險株式會社

明治廿年七月創立 資本金一千萬圓

京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九

事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉強可仕候間舊倍の御引立奉願候

京城南山町四丁目

原金旅館

（電話長一七〇番）

訂正增補 第六版特價即賣廣告

大日本大辭書

大本全一册（紙數二千七百五十頁）定價金拾五圓

六月三十日限り ◎特別割引金九圓

但東京市外は小包郵便料四十八錢臺灣、淸、韓、樺太七十錢を要す

本版は人員に於て四千三百餘名を增補し附するに諸系譜並に和漢洋年表を以てしたれば前版に比し一層本書の面目を新にせり、乞ふ此好機を逸せず速に御注文わらんことを、御送金の上は直ちに發送致すべく候

明治四十二年六月 東京京橋區左衞門町七番地 電話新橋八十七番 振替東京二二二九番

合名會社 經濟雜誌社

移轉廣告

病室完備入院隨意

從來の向へ元（韓城新聞社跡）へ移轉す

十全病院

電話七三七番

石鹸 實用

アイボリー

東洋總代理店

藤原京城支店

電話八〇番 九四番

眼科專門

京城本町一丁目參十四番戶 元藤井跡 （電話三十三番）

醫學得業士 前漢城病院眼科部長 江頭富雄

江頭眼科醫院

九州セメント 一等生石灰販賣

京城南山町一丁目 電話三四四番

山村商店

龍山元町一丁目 電話三四八番

中村運送店

大勉强

改良御料理

御一人前

金五十錢均一

御酒二本 御肴三品

西小門通り

東京樓



工場新築落成に付當分二割引

會席御料理



本町八丁目

富士見樓



東京 銀座 亀屋本店
（銀座東京新橋支店）

營業品目錄寸法用紙御申越次第送呈ス

●御注文ノ節ハ御寸法御用紙ニ御記入ノ上、足長文數御通知ノ事

●御遠方ノ御方ハ照會次第直ニ御答ス

送料 一金二十五錢 朝鮮 臺灣 金拾八錢 内地

電話新橋三四〇二 振替東京四二七八

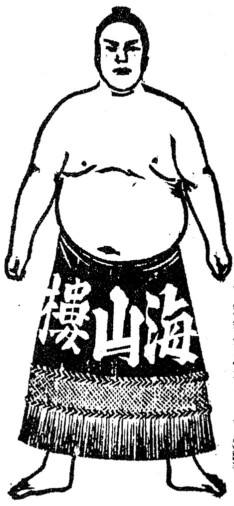
東京市芝區愛宕下町四丁目

龜屋本店

日本橋區新葭町支店

祝開業一週年

破格の勉强



當店儀昨年以來當地櫻井町へ開業仕候處各位の御引立を蒙り日増繁榮に趣き候段難有奉鳴謝候付ては滿一週年に相當致し候間聊祝意を表する爲め今迄の風習改革致し一切色氣無しと料理は其道の達人を雇入れ破格の勉强仕り御開販を數寄求車の程奉希上候謹言

會席一人前八十錢ビール一本付
仕出しも同額にて速に持參致ます

京城櫻井町一丁目

海山亭

電話九百七十八番

營業科目

活版活字鑄造
石版銅版
木版彫刻
コロタイプ版
寫眞版
寫眞銅版
製本裝釘

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築移轉仕候ニ付從前ノ通御愛顧之程奉願上候也

日韓印刷株式會社

本社 京城明治町三丁目 電話（三二三番）

東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋（三九六二番）

特約販賣自製

漬物 味噌 醬油 製造元

京城本町五丁目

大上商店

和洋酒、⓪精酎、穀物麵類銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛各種特約販賣御御望に依り商品切手調進仕候

（電話二二五一番）



鴨綠江特種木材九州セメント取次販賣

末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材

京城旭町三丁目

建築業 柴田芝六

電話五六八番

◎氣候變化＝牛乳

◎牛乳＝純良＝滋養

韓國畜産株式會社

南大門外（電話八八番）

★株式會社 百三十銀行 韓國總支店

京城本町二丁目十五番戶 電話五十八番

資本金五百萬圓

頭取 安田善三郎

爲替取組先

畿内 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、岸和田、御影、兵庫、神戶、平野、住吉、茨木、下市

東海道 東京、横濱、大磯、甲府、靜岡、名古屋、半田、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪、

東山道 彥根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森、秋田、能代、七崎、高崎、

北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、富山、伏木、新潟、

山陰道 宮津、舞鶴、新舞鶴、豐岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田、

山陽道 龍野、姫路、西大寺、笠岡、高梁、玉島、福山、柄、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、平生、下關、萩、德山、小郡、長府、綱干、牛窓、味野、岩見、岡山、

南海道 串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、州本、撫養、德島、善通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、西條、松山、三津ヶ濱、

西海道 直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲、

北海道 函館、小樽、札幌、

臺灣 臺北、臺南、

淸韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、晉州、馬山、

銀行一般の業務精々便利取扱可申候

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

電話十番

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 郡回漕店

電話九三番

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 七月四日午後三時出

●大連、太沽、牛莊行 高砂丸 七月一日正午時

●大連、大沽、牛莊行 山東丸 六月二十二日前五時

●大連、大沽、牛莊行 酒田丸 六月十七日正午

●釜山出帆、元山、淸津、浦鹽行 立神丸 六月十六日午後

注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船ニテ御送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 ▲一ヶ月前金四十錢 ▲一ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢 ▲特別 廣告五號活字十九字詰一行金六十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久尾太
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番